

大正十二年三月

情報彙纂 第二

朝鮮評論(KOREA REVIEW)
布哇國民報及獨逸新聞

記事摘要

朝鮮情報委員會

국회도서관



00105475

第三

第一

第

(一) キヨルニツシエ・ツアイツング……………二五

청구번호 320.951
25382
V. 2

등록번호 105475

저자명 朝鮮情報委員會

서명 情報彙纂 第2~

소속	이름	대출일	반납 예정일	반납일

目次

……………一五

……………九

……………五

……………一頁

朝鮮評論布哇國民報及獨逸新聞記事摘要

第一 朝鮮評論 (Korea Review)

本誌ハ排日鮮人ノ宣傳機關タル在米國費府朝鮮情報局ニ於テ發行スル英文雜誌ニシテ左ハ其ノ近着ノ分ニ掲載セル記事ノ各項目及其ノ要旨ヲ譯出セルモノナリ

(一) 朝鮮評論第二卷第七號一九二〇年九月發行ノ分

一 極東ニ於ケル貸借勘定 「フレッド・エー・ドルフ」所論

筆者ハ元米國「イリノイス」州ニテ辯護士ヲ營ミシ者ニシテ昨春ヨリ華盛頓府ニ移リ朝鮮共和國最高委員部顧問ト稱シ居ル由ナリ

本記事ハ曩ニ「英文排日宣傳冊子内容」ノ一項トシテ謄寫供覽シタルモノニ同シ

二 日英同盟更新ニ對スル英國宗教新聞ノ反對

昨年五月中發行ノ「教會タイムス」ノ記事ヲ轉載シタルモノニテ「本同盟ノ主要目的ノ一タル支那ノ獨立及領土保全ノ保障ハ歐洲大戰ノ結果其ノ必要罷ミタルコト、基督教國カ異教國ノ野望ヲ援護スルハ非ナ

ルコトヲ擧ケテ同盟更新ニ反對シ且日本ノ朝鮮人虐待ノ思想及性格上ニ及ホス基督教ノ感化カ天皇ニ對スル尊崇ノ念ヲ減却スルモノト推想スル起テ日本ノ朝鮮民族ノ正ナル處遇ヲ更ニ要請セムコトヲ希望セリ

三 日英同盟 (社評)

「ロングフオド」教授ハ同盟更新賛成論者ナルカ猶曰ク此ノ更新ニシテ失敗ニ終ルモ英國疲憊ノ今日日本ハ依然トシテ支那併合ノ政策ヲ進ムルニ在リ日本ハ必スシモ英國ノ極東ニ於ケル利益ヲ保護スルニ非ス日本ニシテ力ヲ得ハ同盟ノ有無ニ拘ラス先ツ支那ニ於ケル英國ノ利益ヲ抑制シ更ニ印度濠洲ヲ侵略スルナキヲ保スヘカラス支那ハ今ヤ自覺セリ何レノ強國ト雖從來ノ如ク支那ヲ度外シテ極東問題ヲ處理シ直接間接ニ支那ノ日本化ヲ助成スルカ如キ行爲ニ出テナハ必スヤ支那ノ敵視スル所トナリ禍害測ラレサラム云云ト論ジ本同盟ニ反對セリ

四 朝鮮ノ要望

朝鮮委員ハ昨年七月桑港開催ノ民主黨全國大會ノ政綱委員會ニ一ノ陳情書ヲ提出シ(一)合衆國ハ其ノ獨立宣言以來百三十四年間朝鮮ヲ承認セシニ今日之ヲ承認セサルハ何故ナリヤ(二)合衆國ト朝鮮トノ條約



ハ、締結以來取消サレタルコトナシ然ルニ今日其ノ效力ヲ認メサルハ何故ナリヤ(三)米國人ハ朝鮮ニ於テ鐵道、電燈、水道及近代の工業建設ノ端緒ヲ開ケリ何故之ヲ完成セサルヤ(四)朝鮮ハ東洋唯一ノ準基督教國ニシテ米國ハ之ト提携スルコト二十年ニ及ヘリ然ルニ今日然カセサルハ何故ナリヤ(五)米國ハ代表ナキ納稅ヲ認メサル主義ノ爲ニ起テリ何故今日然カセサルヤト反問シテ委員會ノ注意ヲ促シ最後ニ朝鮮ヲ承認シテ民主政體ト基督教國民トヲ有スル緩衝國トシテ日本ト其ノ亞細亞侵略ノ策動地トノ中間ニ立タシムルハ日本ノ危險ヨリ世界ヲ救フ唯一ノ方法ナリト結ヘリ

五 米國元老院議員「ハーデンク」ト外交政策

共和黨大統領候補指名承認演說ノ一節ヲ引用評論セルモノニシテ氏ハ米國民カ益米國の良心ヲ發揮シ正義ト文明ノ模範トシテ世界平和、國際協調ノ新秩序ヲ確立スルニ努力スヘキ旨ヲ鼓吹セルニ止マリ朝鮮問題ニハ關係ナシ

六 「コックス」知事ノ承認

「コ」氏ノ民主黨大統領候補指名承認演說ヲ評シ其ノ意見ノ「ハ」氏ト大差アリク唯「ハ」氏カ國際聯盟ノ拘束ヲ受ケスシテ自主的ニ世界平和ノ經綸ヲ行ハタトスルニ反シ「ゴ」氏カ該聯盟ヲ通シテ之カ實現ヲ期セムトスルヲ異レリトスルノミト評ス

七 朝鮮ニ對スル米兵ノ音信

朝鮮ヨ！起ツテ！起ツテ日本ノ羈束ヲ脱シ自由ト祖國ノ爲ニ戰ヘ云云ノ意味ヲ歌ヘル詩ナリ

八 朝鮮、日本ト國際聯盟約款

朝鮮カ國際聯盟ニ立脚地ヲ有スルノ途ハ唯何レカノ強國ヨリ共和國タル承認ヲ得、該強國ノ斡旋ニ依リテ聯盟會議ニ參列スルアルノミニ云云

九 米國女子ノ解放

本來男子ヨリモ人情ニ厚キ婦人二千七百萬米國ニ於テ新ニ選舉權ヲ得タレハ米國カ之ニ依リ米韓條約被棄ノ非道ヲ正シ新朝鮮共和政府ヲ承認スルニ至ラムコトヲ希望ス云云

十 日本ノ朝鮮貿易獨占

朝鮮關稅制度改正ニ關スル費府ノ一會社ト商業會議所トノ間ノ照覆文ヲ掲載シタルモノニシテ後者ハ華盛頓國務省内外貿易局ノ情報トシテ朝鮮ニ於ケル日本關稅法實施ノ一年延期ト爲レルコト及朝鮮ニ於ケル米國貿易ノ差別待遇ノ風説ニ付テハ國務省ニ於テ注意ヲ怠ラサルコトヲ答ヘ居レリ

十一 東洋時事

本掲載事項中「犬、飼者ノ手ヲ噛ム」ト題スル一項ヲ設ケ日本ハ南滿鐵道建設ノ爲英國ヨリ六千萬弗ヲ借入レ中二千萬弗ヲ滿洲ニ於ケル軍事及警察ノ設備費ニ投シテ英國ノ勢威及商業的利益ヲ驅逐シ英國ハ之ニ依リ滿洲ニ於ケル日本ノ支那主權篡奪ノ所爲ヲ助成シ却テ意外ノ損失ヲ招ケリト記セリ本誌カ此ノ種

ノ日本ニ對スル英人ノ反感、英國ニ對スル米人及支那人ノ反感ヲ挑發スルカ如キ記事ヲ一再ナラス掲載セルハ注目スヘシ

(二) 朝鮮評論第二卷第八號一九二〇年十月發行ノ分

一 米國議員團ニ對スル朝鮮婦人ノ書翰(昨秋來鮮シタル議員團ヲ指ス)

日本ノ改革ハ不誠實ニシテ朝鮮ノ志士ニ對スル軍國的強壓虐待依然トシテ渝ラス日本ハ結局暴力ニ依リ朝鮮ヲ征服セムトシテ朝鮮人ノ不運ト兩民族間ノ憎惡心トヲ憎長セシメ延テ世界ノ不安ヲ助長スルニ過キサルモノナリ米國ハ唯一ノ朝鮮同情者ナリ云云ト述ヘ米國人ノ援助ヲ求メタリ

本項ノ末尾ニ在上海朝鮮假政府ヨリ該議員團ニ提出シタル陳述書トシテ附載セルモノノ一節ニ「朝鮮ハ東洋問題解決ノ楔子ナリ故ニ朝鮮ハ米國ノ問題ニシテ又世界ノ問題ナリ日支露ハ朝鮮ノ爲ニ戰ヒ極東ノ勢力均衡ハ日本ノ朝鮮占領ト共ニ破壊セラレタレハナリ亞細亞ノ平和隨テ世界ノ平和ハ諸士ノ之ニ對スル見解如何ニ繫レリ」ト述ヘタルハ注目スヘシ

二 日曜學校世界大會

朝鮮人ノ該會參加ノ可否ニ關スル雙方ノ意見ヲ掲ク

三 米國大統領選舉

民主共和兩黨政綱ノ相異點ナル國際聯盟ノ可否ニ言及セルモノニシテ朝鮮問題ニ關係ナシ

四 加州ト日本問題

日本ハ目下加州問題ノ爲米國ト戰フノ力ナク又其ノ意ナキモ之ヲ奇貨トシテ米國ニ鮮支及西伯利ニ於ケル侵略ノ承認ヲ求メテ妥協スルノ策ヲ講スヘシ是レ巴里平和會議ニ於テ山東問題ト人種平等案トヲ交換シタルト同一ノ筆法ナリ米國若シ之ニ應セハ他日米國及世界ノ大禍ヲ釀モスノ悔アラム云云

五 日本ノ英國臣民迫害

「シヨウ」逮捕ノ顛末ヲ叙シタル後彼ニシテ罰スヘクハ「ラファエツト」亦罪人ト謂ハサルヘカラス彼ニシテ果シテ朝鮮獨立運動ヲ後援シタルトセハ彼ハ一層ノ善人ナリ吾人ハ日本ノ虐待カ彼ノ熱誠ヲ冷却スルコトナキヲ信スト論シテ語ルニ落ちタリ

六 朝鮮ニ於ケル神道遵奉強制

先ツ八月一日發京城通信ヲ掲ケ重立チタル神道家ハ神道布教ノ許可ヲ受ケ其ノ準備トシテ東大門關帝廟ヲ總督府ヨリ借受ケ神社ヲ建設シ之ニ天照大神及素盞鳴尊ヲ祠リ尙歷代ノ朝鮮王及其ノ著名ナル王族及功勞アル朝鮮人ヲ合祀スル爲一祠ヲ建設スル計畫アリ云トノ誤報ヲ傳ヘ是レ良心ノ自由ニ對スル新強壓、朝鮮ノ國民性ニ對スル新打擊ナリ神道ハ天皇ヲ神トシテ認ムルヲ其ノ基本教義ト爲ス者ナレハ之ヲ朝鮮人ニ強制スルハ羅馬帝國時代ノ皇帝崇拜ニ等シク結局土人基督教徒及米國宣教師ノ迫害ニ終ラム云

云ト評セリ

七 朝鮮ニ關係アリシ米國人 「ウヰリヤム・エリオット・グリツフェイス」述

筆者ハ東洋通ノ米國人ニテ「隱遯國民朝鮮」(Corea: The Hermit Nation)ノ著者本文ハ大統領「ボーク」同「ファイルモア」彼理提督「ダニエル・ウエブスター」「エドワード・エヴァレット」「バーマー」「マツカスリン艦長」「ジョン・ロス」等日本殊ニ朝鮮ニ關係アリシ人士ノ事ヲ記述ス

八 朝鮮ノ騷擾

「ジャバン・クロニクル」ヨリ平安南北道ノ不安ニ關スル公報ヲ轉載シ且九月二十四日ノ元山騷擾及大邱ニ於ケル十月十五日上海假政府密使八人就縛ニ關スル簡單ナル記事ヲ掲ク

九 朝鮮ニ對スル英國ノ同情

朝鮮人ノ友ナル「エフ・エー・マツケンデー」(譯者曰ク排日英人ニテ「朝鮮ノ悲劇」(The Tragedy of Korea)ノ著者)及「ウヰリアム」二氏ノ論文發表、講演其ノ他ノ盡力ニ依リ英國公衆モ漸ク一部朝鮮問題ノ真相ヲ理解シ始メタリ、「マ」氏ノ近著「自由ニ對スル朝鮮ノ奮闘」ハ大ニ英國讀書界ノ同情ト興味トヲ喚起セリト記シ更ニ英國同情者間ニ倫敦其ノ他ノ中心地ニ於テ朝鮮同情者協會 (The League of the Friends of Korea) ト稱スルモノヲ設置スル意圖アリト報シ參加承諾者トシテ數十人ノ姓名ヲ附記セリ(九頁第十三項參照)

十 雜錄

斷片的雜報ヲ掲ク

十一 朝鮮ノ革命―宣教師ノ態度 「フランク・ダブルユー・スコフィールド」

宣教師ニ對シ獨立陰謀ヲ事前ニ毫モ漏ラササリシハ朝鮮人ノ愛ヲ示スモノナリ宣教師ハ其ノ行動ト言論トニ於テハ中立ヲ嚴守シ即時獨立ノ要求及其ノ手段ニ對シテハ同情セスト雖其ノ衷心ニ於テハ朝鮮民族カ萬事ヲ犠牲ニシテ天賦ノ特權ヲ獲得セムト奮闘セル苦衷ニ深ク同感シ且從來ノ差別的威嚇的壓制政治ヲ立憲的ナル自治政治ニ代ヘムト願ハサルハナシ政府ハ宣教師ノ中立ノ外形的ナルヲ知ル宣教師ハ官憲トノ私的會見ニ於テ腹藏ナク其ノ感想ヲ表白シタレハナリ官憲ハ宣教師ニ對シ朝鮮騷擾鎮定ニ協力セムコトヲ求メタルモ宣教師ハ政治干涉ト無効トノ理由ヲ以テ謝絶セリ官憲ハ平素宣教師ノ政治不干涉ヲカ説スルモ政府側ニ加擔スル政治干涉ハ歡迎スルモノナリ云云ト記シ更ニ在鮮宣教師殊ニ米人宣教師ノ虐待竝朝鮮人基督教徒ノ同教教義ヨリ受クル志操及其ノ迫害ニ關スルコトヲ述ヘタリ(「トロント」發行「ブリスビテイーリヤン・エンド・ウエストミンスター」誌ヨリ轉載)

筆者ハ例ノ「セヴェランス」病院醫師ニシテ加奈陀長老派英人醫學博士ナリ同人ハ目下歸國中ナリ

十二 日本ノ瞞着手段ノ失敗

日本人ハ真相陰蔽ノ爲暗殺陰謀計畫、虎疫猖獗等ノ流言ニ依リ米國議員團ノ入鮮ヲ沮止セムトシテ其ノ

信スル所ト爲ラサリキ云云

十三 朝鮮同情者ノ會合

米國 ベンシルヴェーニヤ州「リーヂンク」ニ於テ朝鮮同情者協會ノ會合アリ又同州「アツバー・パーキオ
メン・ヴァレー」ニ於テ同種ノ協會新ニ設立セラレタルコトヲ記ス

十四 新朝鮮關稅率

内地關稅ト全然同一ナリト記ス

十五 學生欄

內鮮同化ノ不可能ナルヲ說キ日本ヲ羊皮ヲ被レル狼ニ譬フ

第二 國 民 報

本紙ハ布哇在留排日鮮人ノ每週數回不定期ニ發行スル諺文新聞ニシテ左ハ一九二〇年十二月十一日、
同十五日及同十八日ノ同紙上ヨリ摘譯シタルモノナリ

北米合衆國ニ於ケル朝鮮問題

大韓民國法律顧問「ドルフ」氏ノ華府駐在歐米委員長金圭植宛書翰

貴委員部ニ於テ朝鮮問題ニ關シテ取扱ハレタル事件ニ對シ正式的報告ヲ提出スル前ニ豫備ノ報告ヲ提出

ス。正式的ノ報告ハ千九百十九年三月一日ヨリ千九百二十年九月二日迄ニ於ケル年鑑ヲ目下準備中デアアル。本報告ニハ唯一般ノ事情ヲ概略記録シテ其ノ他細密ナルコトハ年鑑ニ讓ル。年鑑ニハ獨立恢復後ニ於テ日本ニ正式ニ要求シタル問題ノ全部、ソレカラ列國ニ公表シタル通告文、合衆國國會議員ニ提出セルモノ及該政府ノ議事録ト同報告トヲ記載スヘシ。

自分カ朝鮮問題ニ關シテ密接ナル關係ヲ結ヒタル後最初ニ於テ研究シタルコトハ朝鮮ノ獨立宣言書、ソレカラ憲法、大韓民國建設當時ニ執レル所ノ必要ナル手續ニ關シ確實ナル報告ヲ得ルコトデアツタ。ソレハ朝鮮ノ列國ニ對シテ提出シタルコトカ正當ナルヤ否ヤヲ確カメル必要カアツタカラデアアル。次テ朝鮮カ列國ト締結シタル條約ノ關係カ如何ニナツテ居ルカト云フコトノ事蹟ヲ知ルコトカ必要デアツタ。就中外交上ノ書類ソレハ朝鮮トノ關係ニ對シテ列國カ如何ナル範圍迄之ヲ承認シタカト云フコトノ事實ヲ確カメル必要カアツタカラデアアル。サウシテ其ノ結果、假政府ノ組織ト憲法トハ法律的ノ解釋ヲ以テ缺點ノナイト云フコトヲ發見シタ。

自分ノ考ヘル所テハ法律ノ記録ト嚴格ナル權利ニヨリ（將來色々ナ事故ニ遭ハナケレバ）貴國ノ獨立ハ唯時日ノ問題デアアル完全ナル記録ヲ備ヘタル所ノ貴國ハ、假令如何ナル將來ニ遭ツテモ其自由ヲ得ル事ハ唯時期ノ問題デアアル。列國ト共ニ締結シタル所ノ條約ノ中ニハ、貴國カ他國ノ壓迫ヲ受ケタル時、其ノ事情ヲ列國ニ通達スルナラハ列國ハ貴國ヲ補助スルコトヲ承認シテ居ル所ノ條約カ存在シテ居ル。故ニ日本

ノ壓迫ヲ列國ニ傳ヘル爲ニ、列國（日本ヲ含ム）ニ對シテ正式の願書ト陳情書トヲ提出シタノテアルサウ
テナケレハ、列國ハ此ノ提出書ニ對シテ論スルコトハ出來ナイカラテアル。ソシテ列國ヨリ韓國ハ日本ニ
對シテ韓國ノ獨立ト主權ヲ與ヘタ際、壓迫ヲ停止シ、條約上ノ責任ヲ守ルト云フ所ノ要求ヲナシタカトノ
外交的質問ヲナスニ於テハ朝鮮人ハ部分的團體ニ依リテ救濟的ノ要求モシタ、ノミナラス朝鮮人ノ紳士等
ニ於テモ之ニ對シテ要求ヲシタト云フコトヲ以テ答フヘキテアラウ、ソレカ爲ニ臨時政府ニ於テハ準備手
續ノ必要上正式ニ政府ヨリ日本ニ對シテ其ノ要求ヲ提出シタノテアルカ、日本ハ之ヲ否認シタ。併シチカ
ラ之ニ依ツテ法律的ニ事件ハ確實ニナツタノテアツテ、日本ヲシテ朝鮮ニ對シテサウ云フ罪惡ヲ行ハシメ
ナイト云フコトニナツテ來タノテアル。同時ニ列國ニ對シテモ右ノ要求ヲ提出シタ。ソレハ列國カスカル
場合ニハ朝鮮ヲ助ケルト云フ所ノ條約カアルカラテアル。サウシテ民國建設ノ事情ヲ列國ニ正式ニ通告文
ヲ出シタノハ、恰モ袁世凱カ日本ニ對シテ國家ノ存亡ヲ正式の交渉シタト同様ノ手續ニ依ツタノテアル。
右ノ通告書ニハ大統領李承晩閣下ニ於テ正式の署名ヲシテ居ラレルカラ、將來ノ必要ノ爲メニ町重ニ保
存セラレムコトヲ希望ス。ソレハ千九百十九年七月ニ始メテ實行シタモノテアツテ、其ノ後、米國ノ人民
ニシテ好意的ニ之ニ應スルモノハ多數ニ出來テ來タカラテアル。歐洲ニ於ケル出來事ニ對シテハ此ノ際省
略シテ唯米國內ニ於ケルモノニ對シテノミ大略述ヘル事トスル。

合衆國ニ於ケル各行政部ハ單ニ名譽的ニ働クモノテアツテ、實際ノ仕事ハ總テ國會ニ於テ執ラレルモノ

テアル。從ツテ一般人民カ之等ノ事件ニ對シテ相當ノ諒解ヲ有ツコトニナレハ、ソレカ結局ソレ等ノ人民ヲ代表スル所ノ議會ニ於テ採擇セラレ、終局ニ成就スルコトニナルノテアル。

斯ルカ故ニ我々ハ朝鮮ノ事情ヲ合衆國民ニ報告スルト同時ニ、國會ヲシテ同情ヲ表セシメ行政部ニ對シテハ其ノ結果ヲ實行セシムルコトニ盡力シナケレハナラヌノテアル。亞米利加ノ新聞ハ非常ニ親切ヲアツテ、何等之ニ對シテ保障ヲ爲スナク又何等ノ通知ヲシナカツタケレトモ、千九百十九年三月ヨリ千九百二十年九月迄ニ至ル十八箇月間ニ於テ朝鮮問題ニ對シテハ九千回以上論說其ノ他寄書等カ登載セラレタ。其ノ中ニ親日的ノ記述ハ五十回ニ過キナカツタ。ノミナラス亞米利加ノ國民中ニ於テ朝鮮問題ニ對スル真相ヲ攻究スル爲ニ無數ノ會カ設立セラレタ。サウシテ色々ナ意見カ下院、上院及行政部等ニ提出セラレタ。

國會ニ於テ朝鮮問題ニ關シテハ議案カ二回提出セラレタ。其ノ一回ハ「ミソリー」州ノ上院議員「セントウ
ンピトスビトンス」ニ依ツテ提出セラレ、今一ツハ加州ノ上院議員「ゼイムス・テイト・ビレシス」ニ依ツテ提出セラレタ。下院ニ於テハ「イリノイス」州「ウイリアム・イト・ミツソン」氏ニ依ツテ提出セラレタノテアル。ソウシテ下院ノ外交委員會ニ附託セラレタ。其ノ當時朝鮮ニ對スル日本ノ壓迫、暴行其ノ他各種ノ事ニ對スル證據書類ハ國會議員ニ直接ニ手渡シセラレテ、國會ノ記錄ヲ出版スル際ニ其ノ事實ヲ記載シ、八萬部ヲ郵税ナシニ一般人民ニ國家ヨリ配布セラレタ。ソウシテ朝鮮問題ニ對シテハ上院議員十八人ト、下院議員三人カ之ニ對スル演說ヲシタ。「ネブラスカ」州上院議員「ジョージ・ダブリュー・トリーリツツ」氏ハ

午後ノ時間全部ヲ朝鮮問題ノ爲ニ費シタ。サウシテ其ノ論旨ハ獨逸ト講和條約ヲ締結スル前ニ、朝鮮ヲ國際聯盟會ニ參與セシメヨトノ主張テアツタ。之ニ對シテ上院議員三十四人カ賛成ヲシタ併ナカラ定數ニ二票不足ノ爲ニ通過シナカツタ。米國國會議事録ノ中ニ、朝鮮問題ニ費サレテ居ル所ノ頁ハ六十四頁ナル。ソレニ依ツテ見テモ、米國人カ如何ニ朝鮮問題ニ注意シテ居ルカト云フコトカ解ルタラウ。

目下米國ニ於テハ女子ノ參政權問題資本家ト勞動者ノ問題國際聯盟ニ參加スルヤ否ヤノ問題等重要ナル問題ノアルニモ拘ラス朝鮮問題カ斯ノ如ク注意セラレルト云フコトハ我々ノ前途ニ向ツテ一縷ノ光明ヲ與ヘテ居ルト云フコトヲ自分ハ確信スルノテアル。

我等カ將來注意スヘキ事項ヲ舉クレハ

一、米國ニ於テハ我等ノ過去現在ニ於テ取リツツアル政策ヲ繼續スヘキテアル。米國國會ハ十二月ニ開會セラルヘキカ其ノ時ニハ既ニ大統領ノ選舉ヲ了リ國際聯盟ニ加入スルヤ否ヤ、其ノ他諸種ノ問題決定セラルヘシ。而シテ朝鮮問題ニ對シ一般ノ注意ヲ喚起セラルヘキニ付キ我等ハ從來ノ政策施行ニ對シ一層奮勵努力スヘキテアル。

二、英國ニ對シテモ可及的同一ノ政策ヲ取ル必要アリ、英國ニ在リテハ朝鮮問題ハ米人ノ後援スル所ナリト思惟セリ、故ニ此ノ如キ印象ヲ去ラシメ、朝鮮問題ハ朝鮮ニ於テ起リタルモノニシテ、米國人ハ單ニ同情ヲ表スルモノナルコトヲ知ラシメサルヘカラス。

三、他ノ列國ニ對シテハ相當ノ人物ヲ選ビ、米國同様ニ運動スルノ必要アリト認ム。

四、以上ノ外諸士ハ一致團結スル必要アリ、國家ノ回復ヲ圖ル重大ナル場合ナレハ諸士ハ各自ノ意見ヲ固執セス、同一目的ニ向ツテ進ムヘキコトヲ切ニ希望スル所ナリ。我米國ノ國技タル理球ニ對スル一大體育家ノ論說ニ「犠牲球ノ場合打者ハ退カネハナラヌカ走者ニ於テ其ノ球ニ注意スレハ最後ニ必ス勝利ヲ得ラルル」トノ言アリ、諸士ハ心スヘキテアロウ。

五、諸君ノ偉大ナル事業ニハ緩急ト秩序カ必要テアル、隨テ官吏ノ任命モ必要テアリ、夫夫委任ヲ受ケタル者ヲシテ充分ニ職務ヲ施行セシメ他ヨリ容喙セシメナイコトモ必要テアル。

六、國際聯盟ハ無用ノ機關ニシテ、自分ノ考ニテハ米國ハ參加セナイテアロウト思フ、隨テ聯盟ハ近ク自滅スルテアロウ、乍併自分ハ之ヲ傍勸スルコトヲ勸メルノテハナイ、英國ニ對シテハ閣下ニ於テ個人的活動ヲ爲シ、同時ニ聯盟ニ對シ代表ノ資格ヲ以テ參加シ、必要ノ場合ニハ「ゼチバ」ニ事務所ヲ設置シ、一人ノ代表者ヲ派遣シ置クヘキテアル。而シテ聯盟ニ對シ効力アル活動ヲ爲スニ於テハ必ス友情ヲ寄スルモノカ出來ルテアロウ。合衆國ハ聯盟ニ參加シ居ラサル爲此ノ場合友情ヲ寄スルニ由ナキニ付他國ニ注意スヘキテアル。尙支那ノ政情ニ對シ常ニ注意ヲ怠ラサルコトカ必要テアル。ソハ支那カ日本ニ反抗シテ起ツタ場合ハ朝鮮ノ回復ハ隨テ速カニ出來ルト思フ。ダカラ支那ノ狀況ヲ直接ニ接受スル様ニセラレムコトヲ望ム。以上ノ報告ハ過去ノ事實ト將來ノ施設ニ對シ大略ヲ記述シタモノテアル。

大韓民國二年九月十五日

大韓民國法律顧問 エイ・ドルフ

附言 「ドルフ」氏ハ前記朝鮮評論ニモ寄稿セル米國人ニテ在米鮮人側ニテハ大韓民國歐米委員部顧問トモ稱シ居レリ。

第三 獨逸新聞

(一) 伯林日報 (Berliner Tageblatt) 記事摘要

土地改良組合ノ組織ニ關スル法律案ノ通過 (一九二〇年五月六日發行)

這般普國議會ハ同國政府ノ提出ニ係ル土地改良組合ノ組織ニ關スル法律案 (Gesetzentwurf über die Bildung von Bodenverbesserungs Genossenschaften) ヲ附議シ直ニ之ヲ議決セリ。其際ブラウン首相ハ本案提出ノ理由ヲ陳述セリ。其ノ要ニ曰ク

本法律案ハ農業政策ニ於ケル重要ナル事項ヲ規定スルモノナリ。現下一般ニ生産ノ昂上ヲ必要トスルハ論ヲ俟タスト雖特ニ農業ニ於テ其切ナルヲ認ム。

外來食糧ハ目下爲替相場ノ低落ニ際シ甚シク高價ナリ。既存耕作地ニ對シ優秀ナル苗種ヲ用ヒ模範的耕作ヲ爲シ絶對的雜草刈除ヲ行ヒ厩肥料及人造肥料ノ利用ヲ完全ニシ生産ノ増進ヲ圖ルハ素ヨリ第一ノ急務ナリト雖。又一方ニ於テハ從來不生産地タル沼地及荒地ヲ開墾シ、山林ヲ開拓シ、灌溉、排水ヲ完全ニシ又土地ノ轉置按配補給及内地殖民ヲ勵行シ、土地所有ノ配分變更ヲ爲スモ等シク急務ナリ。

本法案ハ即チ此開拓事業ヲ律セントスルモノナリ。速ニ議了セラレンコトヲ望ム。

獨逸全國憲法ハ土地經濟ヲ以テ所有者ノ社會ニ對スル義務ナルコトヲ規定セリ。所有者ニシテ其義務ヲ果スコト無キニ於テハ終ニ是カ遂行ヲ強制セラルヘシ。

普國ニ於テハ尙一千五百萬「ヘクタール」(一「ヘクタール」ハ約我一町步ニ當ル)ニ達スル荒蕪ノ地アリ。一八五〇年ヨリ一九一八年末ニ至ル期間ニ於テ約八十萬「ヘクタール」開墾セラレタリ。其步調ノ緩漫ナルスノ如シ。顯著ナル成績ヲ舉ゲントセハ今ヤ一大努力ヲ爲ササルヘカラス。吾人ハ土地所有ヲ希望スル者ニ對シ農地ヲ提供シ、食糧缺乏ニ苦シミツツアル國民ヲ救濟セサルヘカラサルナリ。又排水ヲ完全ナラシムルニ於テハ二千五百萬「ヘクタール」以上ノ沃地ヲ獲得スルヲ得ヘシ。又耕地ノ合併及轉置按配ヲ行フニ於テハ大ニ農地ノ面積ヲ擴大シ得ヘシ。普國ニ於テハ尙二千五百萬「ヘクタール」轉置按配ヲ必要トスル土地現存ス。開拓事業ノ如何ニ困難ナルカハ到底局外者ノ知ルヘカラサル所ナリ。

大戰後郡部移住ヲ希望スル者頓ニ激増セリ。是主トシテ商工業ニ從事セル者、官公吏、軍人ノ土地ヲ變

得シ田園新生活ヲ開始セントスル者ノ増加セルニ因ル。

又從來土地ヲ所有スル者ニ對シテモ其分量ノ充分ナル場合ニハ少クモ一家族ヲ支持スルニ足ルニ至ルヘキ土地ヲ補給セサルヘカラス。又國民ノ大部分ハ休憩時間ヲ勞働ニ利用シ日用食糧ノ生産ヲ圖ラントス。

然レトモ是等ノ希望ヲ充實セシメントスルニハ長年月ト莫大ノ經費トヲ要スヘシ。戰時中ハ畠地四町步、草地一町步、住家、厩、納屋、物置、井戸、必要生物及農具ノ價格合計一萬九千馬克ナリシモ現今ニ於テハ其價格十二萬馬克以上ナリ。

一九一八年末以來今日ニ至ル迄ニ國有農地ヨリ拂下又ハ貸與ヲ爲シタルモノ既ニ一萬六千町步ニ達シ國有林ヨリ四千町步ヲ拂下ケ二千町步ヲ貸附ケ私有林ヨリ三萬町步ヲ賣却セシメ地方移住ニ便セント努メタリ。是レ畢竟郡部移住事業ノ端緒ヲ開キタルニ過キスト雖農業ハ其組織上急速ニ改革ヲ爲スヲ許サス。然レトモ議會ニシテ現政府ノ農業政綱ノ遂行ニ關スル該法案ヲ通過セシムルニ於テハ遠カラスシテ相當ノ成績ヲ舉クルヲ得ヘシ云云。

二 資本合同ノ傾向 (同六月十七日發行)

國務大臣ヒルシユ氏ハ嘗テ官公營產業調查委員會秘密會議ニ於テ現時ニ於ケル共同(團體)經濟的資本ノ成立ノ趨勢ニ關スル調査ノ成績ヲ發表シタルカ氏ハ近ク之ヲ歐洲國家及經濟新報(Die Europäische Staats

und Wirtschafts Zeitung) に於テ公表スルニ至ルヘシ。

其内容ハ述者カ政争の利害觀念ヲ離レ單ニ専門家トシテ獨逸全國經濟省ヲ督シ嚴密ナル調査ヲ爲サシメ其成績ヲ報告セルモノナリ。

ヒルシユ博士ノ報告ニ據ルニ同氏ノ調査ニ係ル現下ニ於ケル經濟上ノ諸問題ハ何レモ其解決ヲ共同經濟ノ實行ニ依ツコト切ナルノミナラス之カ實行ハ既ニ現下ノ趨勢ニシテ又其趨勢ハ自動的ニ經濟上ノ新形態ヲ產出スルモノナリ。但シ一般國民ノ生産力ノ増進ヲ計ラントスルニハ果シテ何レノ程度迄共同經濟ヲ實行スヘキカ。又特殊ノ場合ニ於テハ何レノ程度迄共同經濟の資本ノ成立ヲ促進スヘキカハ何レモ原則的問題ナリ。然レトモ之ニ關シテハ未タ解決ヲ與ヘス。本紙ノ拔萃發表セル調査成績大略左ノ如シ。

革命勃發ニ關聯スル各種ノ原因ニ依リ爾來經濟的私有資本ヲ成立セシムルハ不可能ノコトトナレリ。

(第一) 資本ヲ増加シ利得之ニ伴フニ於テハ職工ハ直ニ賃銀ノ引上ヲ強要シ、利得増加ヲ達成スル餘地ナシ。

(第二) 課稅ヲ回避スル者ハ其紙幣及債券ヲ外國ニ移送シ其高總額ノ半數以上ニ達シ、現今外國ニアル獨逸ノ債券三十億馬克ト稱セラル。

外國ニ於ケル銀行預金高モ亦同額若クハ同額以上ニ達セルモ疑フヘカラサル事實ナリ。

(第三) 貨幣價值及物價ノ變動激甚ナル事實ハ資本ノ成立ヲシテ甚シク困難ナラシム。實際ニ於テ此事

實ヲ明瞭ナラシムルモノハ即チ建築事業是ナリ。目下人爲的ニ家賃ノ引下ヲ強行シツツアルヲ以テ何人モ建築ヲ敢テスルモノ無シ

(第四) 對外債務モ亦國內ニ於ケル資本成立ヲ困難ナラシムル一因ナリ。

斯ノ如キ形勢ノ下ニアリテ自ラ私有資本ニ代リ經濟界ノ必要ニ應シ得ルモノハ即チ共同經濟的資本ナリ。戰時經濟中ニ於テ既ニ設立セラレタル調節用積立金ノ如キ之カ端緒ナリ。現ニ勞働者居住建築獎勵ノ爲メ大規模ヲ以テ各炭坑地ニ計畫セラレタル積立金ノ如キ其顯著ナル事項ニシテ該積立金ヨリハ今年既ニ六億乃至八億馬克ヲ支出セララルヲ得ルニ至レリ。カリユー業ニ於テモ規模小ナリト雖同様ノ計畫アリ。又望素工業ニ於テハ前者ニ比シ稍大規模ヲ以テ同種ノ計畫ヲ爲シツツアリ。鑛山業ノ作業開始セララルニ於テハ大規模ヲ以テ共同經濟的資本ノ成立ヲ必要トスヘシ。産業官公營調査委員ハ今ヤ石炭ニ關シ共同經濟ヲ基礎トセル經營方法ヲ論議シツツアリ。

加之獨逸全國ノ財政状態ハ既ニ是カ強行ヲ必要トスルモ計リ難シ。又獨逸大藏大臣ハ「ゲオルグベルンハルト」氏ノ發表ニ係ル一部租稅負擔ノ調達ヲ自治團體ニ轉課スヘシトノ考案ヲ採用セリ。然レトモ何レモ其實行方法ニ關シテハ未タ決定ヲ見ルニ至ラス。ヒルシユ氏ハ之カ實行ヲ爲スニハ可能的多種ノ産業ヲ通シテ營業經費ノ差ヲ測定シ利得ノ差額ヲ徵收シ而シテ租稅ニ充ツルヲ唯一ノ方法ト爲ス。是レ畢竟曾テ官公營調査委員小數者ノ意見トシテ發表セラレタル考案ト同思想ニ基ク考案ナリ。

外國借款ニ附帶スル特殊ノ事情モ亦共同經濟的資本ノ成立ヲ促進スル傾向アリ。爲替相場ノ低落ヨリ生スル債務ハ何等カ共同經濟的團體ヲ組織セシメ之カ負擔スル利息ノ保證ヲ基礎トシ以テ整理ノ方法ヲ講セサルヘカラス。而シテ該團體ハ抵當ヲ取り自ラ之カ管理ノ衝ニ當ラサルヘカラス。

外債ニ對スル保證ハ今後到底個人ノ負擔シ得ル處ニアラス。故ニ將來ニ於テハ現存自治團體モ益々合同ヲ斷行スヘク此處ニ自ラ大小資本ノ成立スルヲ見ン。爲替取扱所亦之ニ同シ。同所ニ於ケル剩餘金ハ決シテ尠少ニアラサルナリ。是レ又幾分爲替相場ノ確立ヲ助長スル所以ナリ。

國內ニ於ケル物價ハ獨蘭借款條約ノ成立ニ依リ漸ク確立スルニ至ルヘシ。對蘭借款ノ用途ハ未ク最後ノ決定ヲ見スト雖本借款ノ用途ハ特殊ノ他位ニ居ル者ノ利益獲得ニ便センカ爲ニアラスシテ社會ノ爲ニ物價ノ引下ヲ達成シ同時ニ幾分物價標準ノ確立ヲ誘致スルニアルハ確實ナリ。

ヒルシユ氏ハ當局ニ於テハ前記ノ考案ヲ何レガノ方法ニ依リ聯結センコトヲ計畫シツツアルコトヲ高調セリ。然レトモ事實上此聯結ハ何レノ考案カ實行セラルルニ於テモ爲替取引ニ依リ左右セラルルコト甚大ナリ。又從來物價引下政策ハ何レモ政府ノ豫算ニ依リ行ハレタルモノナルカ將來ハ共同經濟的基金ニ依リ之ヲ行ハントスル計畫アリ。既ニ爲替取扱所ハ相當ノ報酬的利得ヲ與ヘラルルニ於テハ此種目的ノ達成ヲ圖ランカ爲ニ從來政府豫算ニ計上セラレタル金額ノ大部分ヲ負擔スヘキコトヲ承諾セリ。又進ンテハ全國戰後臨時納金ノ收入ヲ信託機關ニ依託シ其管理ノ下ニ全國ヲシテ工業ニ參加セシムル

方法及工業界ノ共同的保證ニ依リ外債ヲ募集スル方法ノ如キモ當局間ニ頻リニ討議セラレツツアル所ナリ。

前記ノ提案ハ各種ノ點ニ於テ尙攷究ノ餘地アリト雖一般ニ於テハ將來ニ於ケル發展ノ傾向並ニ實際政策ノ方針ヲ指摘スルモノナリ。蓋シ現下既ニ獨逸經濟界ノ趨勢ハ事實上日ヲ追フテ前記ノ方向ヲ以テ進ミツツアレハナリ。

三 伯林ニ新化學研究協會創立セラル (同六月十八日發行)

故エミルフイツシエル博士記念ノ爲過般伯林ニ於テ化學的研究ノ獎勵ヲ目的トセル「エミルフイツシエル」協會(Emil-Fischer-gesellschaft)ノ創立ヲ見タルカ這般又同府ニ於テ化學書刊行獎勵ヲ目的トセル「アドルフバーゲル」協會(Adolf-Baeger-gesellschaft)創立セラレタリ由來獨逸化學協會(Deutsche Chemische Gesellschaft)ハ其紀要ヲ發行スル以外ニ化學中央評論(Chemische Zentralblatt)ヲ發行シ約五百種ノ雜誌ニ掲載セル記事ヲ評論シ其大索引ヲ發行シ有機化學書索引、無機化合物彙纂、有機化學全書(其第四版ハ十五冊ノ豫定ナリ)ノ刊行ヲナセリ。何レモ化學及化學的工業界ノ基礎的著作ニシテ恰モ獨逸化學界ノ生命ナリ。

然ルニ近時資金ニ不足ヲ來シ刊行ヲ繼續スルコト或ハ不可能ナラントス。是レ有志者カ前記ノ新協會ヲ創立シ基本金ノ調達ヲ圖リ其利子ヲ以テ刊行ノ繼續ヲ可能ナラシメントスル所以ナリ

四 動力ノ節約研究開始 (同六月二十三日發行)

石炭缺乏ニ依リ其價值益々昂上シ動力節約ノ必要甚大ナルニ鑑ミ昨年既ニ獨逸全國ニ於ケル石炭消費者間ニ連絡ヲ取り節約ノ勵行ヲ目的トセル熱力經濟中央部(Hauptstelle für Warmwirtschaft)ノ設立ヲ見タルカ節約ハ熱力ニ於テ之ヲ行フノミナラス、動力ニ對シテモ一層節約ヲ勵行スルノ要アルハ言ヲ俟タス。

於是更ニ動力發動機ヨリ作業機械ニ至ル迄ノ間ノ傳送ニ際スル動力ノ喪失ニ關シ研究ヲ爲スノ必要ヲ認ムルニ至レリ。例ヘハ蒸氣機械ト作業機械トノ間ノ傳送ニ對シ種々ノ機械アリト雖何レモ機能不完全ニシテ動力ノ浪費セララルコト尠少ニアラサルナリ。此缺點ヲ除カンカ爲ニ獨逸技師協會ハ這般伯林ニ専門家を召集シ該問題ニ關スル講演會ヲ開始スルコトトセリ

又同會ニ於テ獨逸技師會々長ヘルミヒ氏ハ動力傳送ニ關スル經濟的調査委員會ノ研究成績ヲ叙述スヘシ

(二)キヨルニツシエ・ツアイツング (Koernische Zeitung) 記事摘要

獨逸農業労働者組合ノ現状 (一九二〇年二月十七日發行)

獨逸農業労働者組合 (Deutscher Landarbeiterverband) ハ一九二二年ニ於テハ僅ニ組合員二萬人ヲ算シタ

ルニ過キサリシカ現時其總數ハ男女併セテ約六十二萬五千人ノ多キニ達セリ。

而シテ此増加ノ原因ハ主トシテ農業労働者ニ對シ今ヤ結社權(Vereinsrecht)ノ允許セラレタルニアリ同組合ハ例ニ依リ本年二月中旬其總會ヲ伯林ニ開キ當日農務大臣ブラウン氏ハ一場ノ式辭ヲ述ヘタリ。其要旨ニ曰ク

農業労働者ハ今ヤ無制限結社權ヲ獲得セリ。然レトモ之ニ依リ彼等カ全國民ニ對シ負フ所ノ義務モ重大トナレリ。結社權ノ長所ハ之カ解釋ヲ誤ラス之ヲ善用シ農業ニ於ケル罷業ヲシテ其必要無カラシムルニ在ルコトヲ高調シ、組合幹部モ全員一致ヲ以テ獨逸全國ノ労働者ニ對シ最モ嚴格ナル規律ノ遵守ヲ要望スヘク。又農業労働者ハ斷シテ獨逸國民ノ營養ヲ危カラシムルカ如キ行爲ニ關與セサルコトヲ宣言セリ。然レトモ幹部ハ同時ニ現下復々農業雇主中ニ革命以前ニ於ケルカ如キ服從關係ノ復興ヲ企ツル者アリテ現ニ「ボンメルン」州ニ於テハ是カ對抗運動ヲ開始スル必要ヲ生シツツアルコトヲ報告シ、又組合ハ何等政黨的色彩ヲ帶フルコト無キヲ言明シ、終ニ農業ノ公營(Sozialisierung der Landwirtschaft)ハ組合ノ理想トスル最高ノ目的タリト雖、現下ハ尙ホ之ヲ實行スヘキ時機ニアラス漸進ヲ以テ之カ達成ヲ期スヘク其ノ階梯トシテ先ツ社會的思想ト民主的思想トノ調和ヲ促進スヘキ必要アルコトヲ陳述セリ。

二 職業紹介 (同二月十九日發行)

現時獨逸ニ存在スル職業紹介ノ方法及其機關ハ新聞廣告、營業的職業紹介所、勞資共同職業紹介所及自

治團體ノ職業紹介所ナリトス。

然レトモ營業的職業紹介所ノ紹介ハ範圍極メテ狹少ニシテ廣ク職業情勢ノ一般ヲ知ラシムニ由無ク、廣告ハ往々新聞購讀者ト廣告者トノ間ニ利害ノ一致ヲ缺クヲ以テ其用ヲ爲ササルノミナラス、數種ノ新聞ニ廣告セサルヘカラサルカ故ニ不廉ナル方法トナル。

勞資共同職業紹介所ノ紹介ハ經濟界ニ於ケル各種争鬪ノ爲ニ利用セラレ公平ヲ缺ク。千九百十九年十一月十一日各種勞資共同職業紹介所ハ相互間ニ協定ヲ爲シ同機關ニ對スル勞資代表者ノ權能ヲ均等ナラシメ公平ヲ圖ランコトヲ期セリ。

然ルニ此變更後ハ幹部ニ職權ノ争奪猛烈ニ行ハレ公平ヲ得サルコト從前ニ異ナラス。且ツ本職業紹介所ハ各々職業別ヲ以テ組織セラルルヲ以テ一般的職業情勢ヲ知ラシムル用ヲ爲サス。

現時主トシテ利用セラルルハ自治團體ノ職業紹介所ナリトス。然レトモ同紹介所ニモ亦缺點無シトセス即チ同紹介所ハ適材ヲ適所ニ配置セントノ趣旨ニ基キ雇主ニ對シ自己ノ意見ヲ標準トシ勞働者ヲ配分シ、又雇主及勞働者ハ何レモ自治團體紹介所ノミニ頼ランコトヲ強要ス。曾テ勞兵會組織セラレタルヤ同會ハ此要望ヲ強制的タラシメ且ツ職業紹介ニ關スル廣告ヲ掲載スル新聞ヲ嚴罰ニ處スルコトヲ規定セリ

千九百十九年九月十二日普國內務大臣、商工務大臣及農務大臣ハ職業紹介條例 (Verordnung über Arbeitsnachweise) ヲ發布シ警察令ニ依リ特別ノ事情アル場合ノ外職業紹介ニ關シ新聞廣告ヲ利用スルコ

トヲ禁スルヲ得ルコトトセリ。

今ヤ獨逸全國ニ對シ此制度ヲ施行センコトヲ希望スルモノ頓ニ増加セリ。但シ自治團體ノ紹介所ト雖其職責ヲ全ウスルハ容易ナラサルヤ明ナリ。實際ニ於テ適材配置ノ理想ヲ實現セシメントスルニハ各種工業及其各工場ノ特性ヲ知悉シ且ツ黨派心ヲ超越セル人事的知識ヲ具有スル多數ノ役員ヲ置クヲ必要トス。然レトモ多數ニ斯ル能力ヲ有スル役員ヲ得ルハ抑モ不可能ナリ。故ニ結局自治團體紹介所ニ於テモ番號ヲ以テ求職者ヲ配分スルニ至ル。其結果トシテ雇主ハ不適任者ヲ採用シ。暫ニシテ之ヲ解雇セサルヘカラサルコト稀ナラス。此際最モ迷惑ヲ感スルハ労働者ナリ。

前記ノ現状ニ鑑ミ這般高等司法顧問シユミヨルデル氏ハ「國營職業紹介者」(Verstaatlichung des Arbeitsmarktes, Simon Berlin)ナル題下ニ小冊子ヲ公ニシ、中ニ各種労働紹介所ノ長所ト短所トヲ評論シ千八百八十四年ノ發表ニ係ル「労働者團體請願」(Petition aus der Arbeiterschaft)ト先年來「普國年報」ニ於テ氏カ發表セル論文トヲ參酌シ本問題ニ關スル意見ヲ發表セリ。其論述ノ主眼トスル處ハ中央國立職業紹介所ヲ設立シ終始職業情勢ノ一般ニ關スル觀察ヲ容易ナラシメ全國ヲ通シ何時ニテモ時間ノ損失無ク又經費ヲ要セスシテ雇主及労働者カ相互間ノ需要ノ實況ヲ知ルヲ可能ナラシメ、各個人カ經濟事情ノ推移ニ鑑ミ從業地又ハ職業ヲ變更スル必要アル如キ場合ニハ時機ヲ逸セス是カ達成ヲ可能ナラシメ、又國家カ工場ニ於ケル労働者ノ使役ニ關シ調節ヲ爲スヘキ必要アルカ如キ場合ニ其判定ヲ容易ナラシムルニ

アリ。

著者ノ強制ヲ勵行セントスル處ハ單ニ雇主カ労働者ニ對スル需要任免ニ關シ漏無ク通告ヲ爲スコトニアリ。其他ハ自由ヲ以テ原則トシ、雇主労働者共ニ何レノ紹介方法ヲ用ウルモ妨ケ無ク。新聞廣告ヲ利用スルモ差支ナシト云フニアリ。

大正十年三月二十五日 印刷
大正十年三月二十八日 發行

朝鮮總督府

京城旭町貳丁目十番地

印刷所 京城印刷所